

情報教育研究部会「生徒が主体となった情報モラルの確立」について

1 はじめに

1人1台端末が当たり前になった学校教育の中で、本校ではこれまでに授業や集会などの様々な場面で ICT 機器を有効的に活用してきた。しかし生徒が ICT 機器を容易に使える現状は良い点ばかりだけではなく、多くの配慮を要するものでもある。特に本校では、校内でのタブレット端末の使い方や、SNS の利用方法が課題として挙げられる。そこで今年度、情報教育部会は「情報モラル」に関する指導に努め、様々な取組を行い、その成果と課題をまとめた。

2 取組内容について

① 「ICT 機器と生活に関するアンケート」の実施

(1) 調査目的

情報教育研究部の目標である「生徒が主体となった情報モラルの確立」にせまるために、5月に生徒に向けてアンケート調査を実施した。生徒の ICT 機器の使用状況に加え、日々の生活習慣を調査し、それらを分析することで、その後の情報教育研究部の活動につなげることを目的とした。

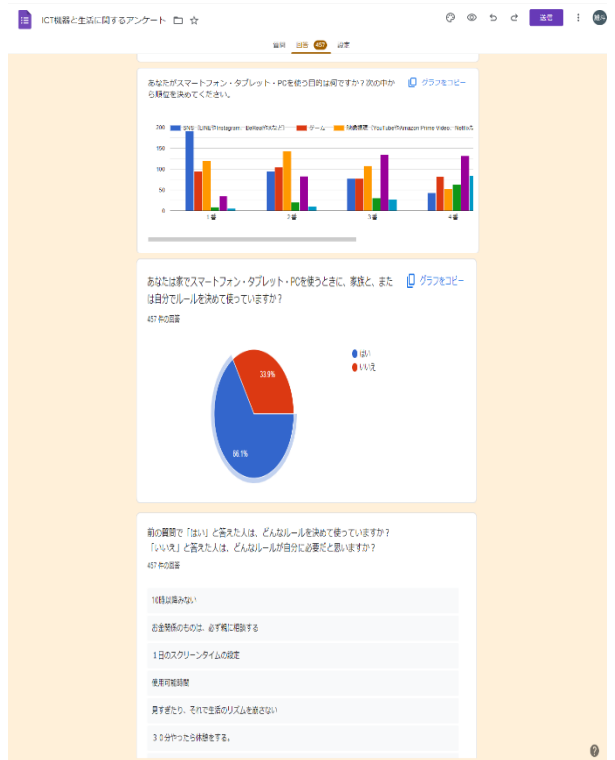
(2) 調査内容

調査内容については下記の通り示した通りである。

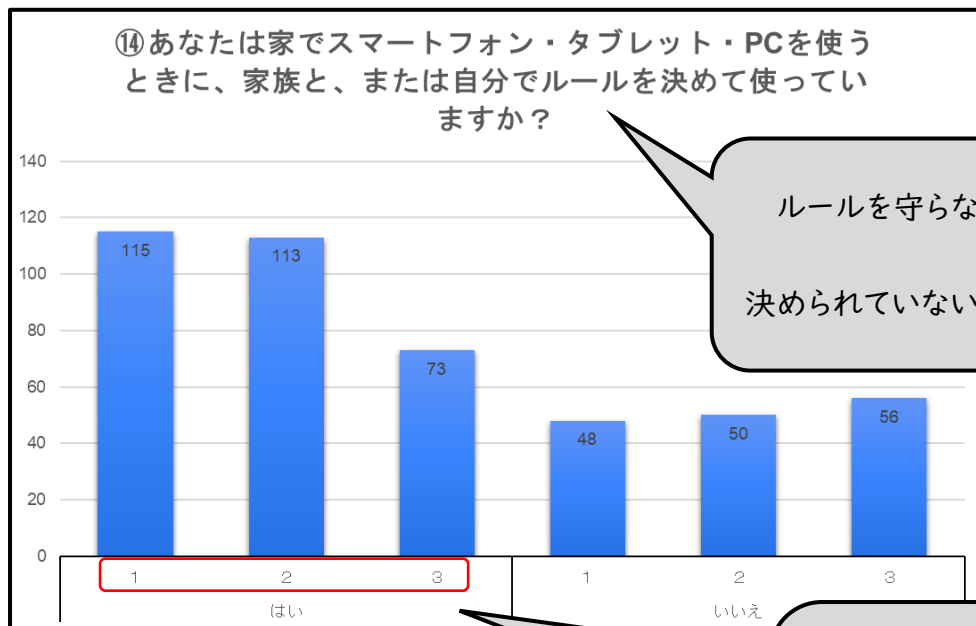
- ・平日、休日のスマートフォンやタブレットの使用時間。
- ・平日、休日のスマートフォンやタブレットの使用することが多い時間帯。
- ・平日、休日の勉強時間。
- ・平日、休日の睡眠時間。
- ・平日、休日の就寝時間。
- ・スマートフォンやタブレットを使用する目的。
- ・家庭でスマートフォンやタブレットを使用するときのルール。
- ・スマートフォンやタブレットを使用するとき気を付けていることや注意していること。
- ・スマートフォンやタブレットに関係するトラブルや困りごと。

(3) 調査結果からの考察

調査の結果から、スマートフォンやタブレットの使用時間が多い生徒は、日々の睡眠時間や勉強時間が短く、またスマートフォンやタブレットを使用する時間帯が遅い生徒は、就寝時間も遅くなっている生徒が多いなど、ICT 機器の利用状況と生活習慣が相対的な関係にあることが分かった。全体の結果として気になる項目は2つ挙げられ、1つめは「平日、休日のスマートフォンの使用時間」である。平日に3時間以上使用している生徒が35%、休日に5時間以上使用している生徒は36%と、平日も休日もかなり長時間使用している生徒が多い結果となった。2つめは「家庭でスマートフォンやタブレットを使うときに、家族と、または自分でルールを決めて使っているか」という質問であり、この質問に対し

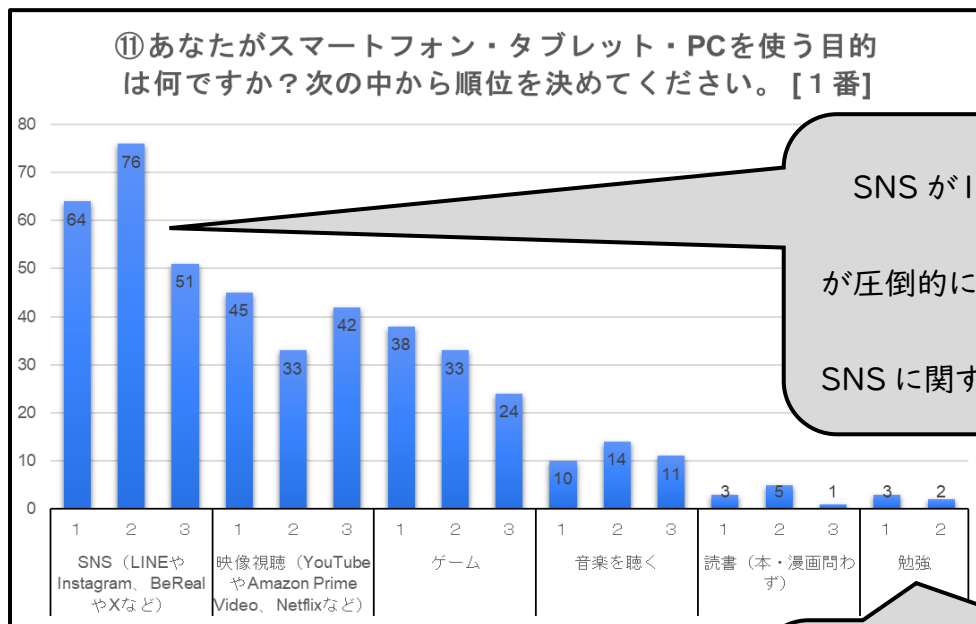


て「いいえ」と答えた生徒が34%、つまり3人に1人がルールを決めずに使っていることが分かった。また、学年ごとに見ると、スマートフォンやタブレットの使用時間や、使用目的にも大きな違いがあり、学年ごとに生徒の実態に合わせた指導が必要であることが分かった。



ルールを守らない以前に、家庭ではルールが決められていない家庭が多かった。

学年ごとにより結果に違いが出る。
学年が上がるにつれて、好ましくない回答の数が増える項目が多かった。



SNSが1番の使用目的と答えた生徒が圧倒的に多く、トラブルや困りごともSNSに関することが多く書かれていた。

授業ではタブレットを使用しているが、自発的に勉強のためにICT機器を使用している生徒はほとんどいないことも分かった。

② 保健委員会による、「ICT 機器との上手な付き合い方」の発表

(1) 発表の目的

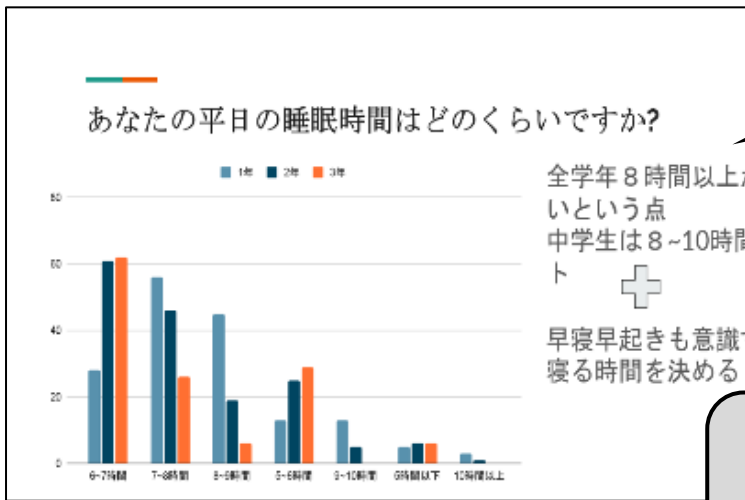
5月に実施した「ICT 機器と生活に関するアンケート」の結果を踏まえ、その実態を分析し、気になる項目について、目標にある「生徒が主体」という部分に迫るため、保健委員会の生徒と連携して、改善すべき点や改善策を考えた。また、ICT 機器を使用することで起こる健康被害について知り、夏休み中の生活で、安全で健康にインターネットを利用する態度と判断力を養うことを目的とした。

(2) 発表の内容

発表内容については下記の通り示した通りである。

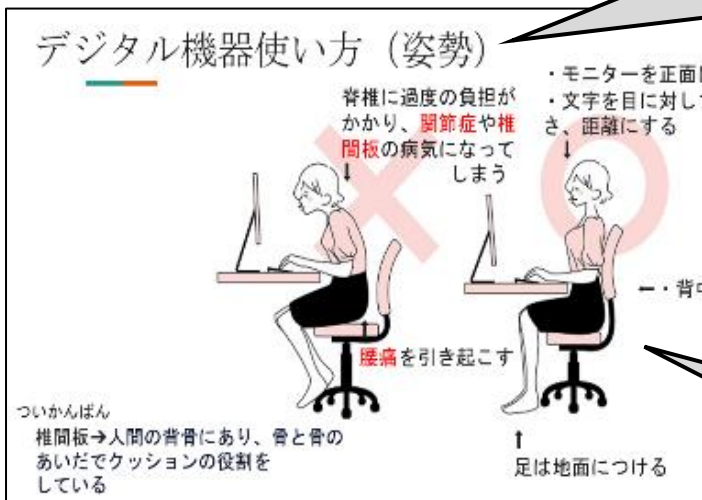
- ・「ICT 機器と生活に関するアンケート」の結果と分析
- ・スマートフォンやタブレットを使う上で、気を付けるべきこと。
- ・正しい生活習慣とは。
- ・スマートフォンやタブレットが引き起こす健康被害。
- ・ICT 機器の健康的な使い方。
- ・東中生の課題と解決策。

(3) 発表で実際に使用したスライド



東中学校の生徒の特徴を踏まえたうえで、改善点などをわかりやすく示している。

ICT 機器を使うことによって引き起こされる健康被害について示している。



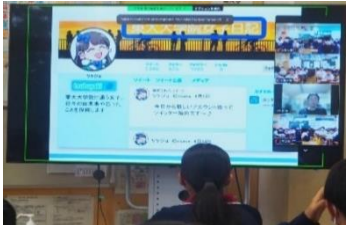
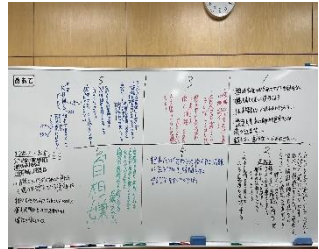
図などを用いて、健康的に ICT 機器を使用するための具体的なポイントを示している。

③ 学年ごとにネットモラルに関する行動目標の作成

(1) 実施の目的

5月のアンケート結果から、学年ごとに ICT 機器を利用する際の課題や改善すべき点に違いがあることが分かった。生徒たちが主体となって、自分の課題としてネットモラルと向き合うために、ネットモラル講演会や道徳の授業を通して、クラスや学年ごとに意見を話し合い、学年で1つの目標を定めることで、ネットモラルに対する意識を向上させることを目的とした。

(2) 目標作成までの取り組み

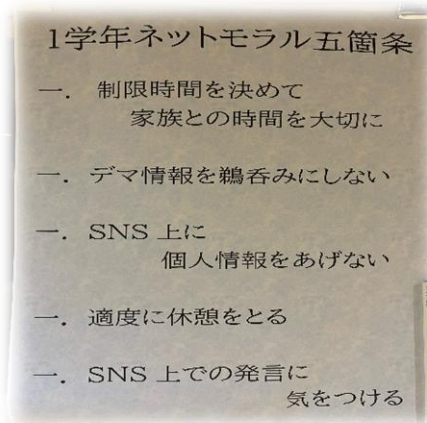
月	取り組み	内容
7月	・保健委員会による、「ICT 機器との上手な付き合い方」の発表	・取組内容②を参照
8月	・ネットモラル講演会	・グリーン株式会社 社会貢献チーム <small>おぎそけん</small> 小木曾 健さんを講師としてお招きし、実際に起きたネット炎上事例を題材に、問題を整理しながら、ネット上での「適切なふるまい」や「絶対に失敗しない使い方」を学んだ。 
9月	・学年でネットモラルに関する道徳の授業を実施	・学年ごとにネットモラル講演会で学んだことをふまえたうえで、ネットモラルに関する道徳の題材で授業を行い、各クラスでネットモラルに対する自分たちの課題や改善点を話し合った。
10月	・第1回ネットモラル向上委員会 ・第2回ネットモラル向上委員会	・各学年で、各クラス代表者2名を集め、道徳の授業で出した意見を持ち寄り、話し合いを行った。各クラスの意見を参考にしながら、学年として意識すべき点をまとめた。 第1回でまとめた意見をさらに修正し、ネットモラルに関する行動目標を作成した。また、ネットモラル向上委員会で掲示物を作成し、学年の全生徒が目標を認知して、それを意識して行動していくように声掛けを行った。 

(3) 各学年がかかげた行動目標

1学年

1年生の学年五カ条

- ① 制限時間を決めて、家族との時間を大切に!
- ② デマ情報をうのみにしない!
- ③ 個人情報をあげないようにする!
- ④ ネットを使用する以外のことをして、休息をとる!
- ⑤ ネット上での発言に気を付ける!



2学年

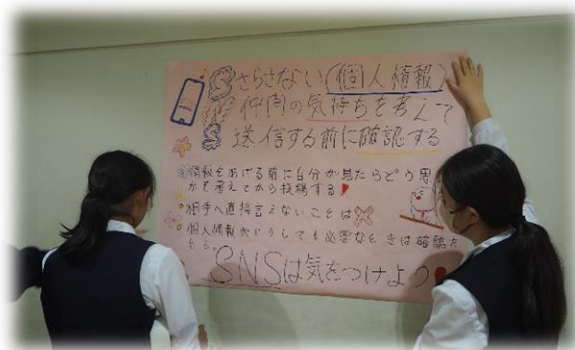
S さらさない(個人情報)

N 仲間の気持ちを考えて

S 送信する前に確認する

SNS に気を付けよう!

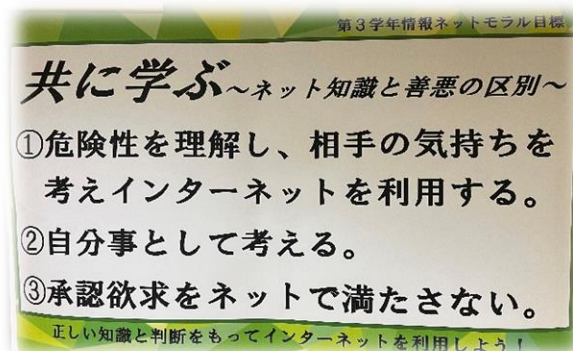
- ・相手へ直接言えないことは×。
- ・個人情報がどうしても必要な時は確認をとる。
- ・情報を上げる前に、自分が見たらどう思うかを考えてから投稿する。



3学年

共に学ぶ ~ネット知識と善悪の区別~

- ① 危険性を理解し、相手の気持ちを考え
インターネットを利用する。
- ② 自分事として考える。
- ③ 承認欲求をネットで満たさない。



3 まとめ

5月に行ったアンケートにより、生徒がICT機器をどのように使っているか、使い方と日々の生活とどのように関連しているかを把握できたのは1つの成果である。また、そのアンケート結果をもとに、生徒が様々な取組を主体的に行うことで、ネットモラルに対する意識は明らかに高くなってきていると感じる。以前は、学校生活の中で目的を考えず、自分本位な理由でタブレットを使用してしまう生徒も見られたが、この取り組みを通して、そのような生徒の割合が減ってきている。今後は、東中学校オリジナルの「情報モラルチェックリスト」でネットモラルに関する意識調査と、5月と同内容のアンケートを12月に実施し、数値としてどのような変化が表れるかを見ていきたい。

学校内での生活の変容が見られた一方で、スマートフォンなどの利用については、保護者との連携、協力が必要不可欠である。「生徒が主体となった情報モラルの確立」に迫るため、校内での活動は積極的に取り組むことができたことを、保護者との連携強化にもつなげていくことが今後の課題である。このあと実施予定のチェックリストやアンケートの結果を踏まえ、協力を呼びかける啓発活動や、面談等で話題にあげるなどして、保護者との密な連携を目指して取り組んでいく所存である。